

土木合唱団（シヴィル・クワイア） の誕生と歩み



かやはら ひでお
栢原 英郎*

キーワード：合唱団，土木学会，コンサート

はじめに

第96代の土木学会会長に就任した平成20（2008）年5月，私は石井弓夫前会長から業務引継ぎを受けたが，その最後に一つの宿題が出された。「お隣の大韓土木学会（以下，KSCE）には男声合唱団があり，素晴らしい活動をしていると聞く。残念ながら我が土木学会には男声合唱団がない。是非立ち上げて欲しい」というものだった。

1. シヴィル・クワイアの誕生

依頼されたものの，もとより私にそのような才能はない。話を伺いながら頭に浮かんだのは鳥取大学の上田茂教授の顔であった。

実はこの数年前鳥取に出張し，その夜に県の方々とは会食をすることになった。その席に県側の心配りで，運輸省の後に鳥取大学で活躍していた二人の教授を呼んでくださっており，その一人が上田茂教授であった。

その席で何がきっかけだったのか定かではないが，県の課長が大学時代に男声合唱団で歌っていたと語り，私も「大学の教養部時代に合唱団にいた。全日本合唱コンクール大学の部では，大学の数も少なかったので常に北海道代表となったが，全国大会では毎回最下位だった。しかし私が1年で出場した福岡大

会では3位になった」という話を，自分の手柄のように話した。すると上田先生が，静かに「私も京大時代合唱をやっていました」と話し出し，それではということで二次会はカラオケへ行くことになった。

そのカラオケで玄人はだしの上田先生の歌声を聴くことになり，合唱をやっていたなどと話すのではなかったと後悔の念にかられるという出来事があった。

そこで私は石井さんから話があった翌日，鳥取大学に電話をし，上田先生に「土木合唱団を作りたいので協力をしていただけませんか？」とお願いしてみた。上田先生は快く引き受けてくださり，「協力」どころか指揮者を京大合唱団時代の仲間の宮地明彦さんをお願いしてくれた。仲間も募っていただき，短期間で男声合唱団がスタートすることになった。

土木学会の大先輩岡田宏さん（第86代土木学会会長，旧国鉄常務理事・技師長）も加わってくださり，我々に勇気を与えてくださった。上田茂先生と宮地明彦さん，そして岡田宏さんの励ましがなければこの合唱団は生まれていなかっただろう。

名前はしばらく「土木学会合唱団」としていたが，手続きもないまま「土木学会」を冠するのはまずいと考え，土木工学＝シヴィルエンジニアリングから「シヴィル・クワイア」

*学校法人草苑学園 草苑保育専門学校 副理事長 学校長

となった。

2. 手探りの活動開始と自前の演奏会

合唱団としてスタートはしたものの、練習場の確保が最初の問題となった。四谷の土木学会の会館が練習に最適だが、どの会議室も利用度が高く、定期的に確保するのは難しかった。そこで赤坂見附にある日本港湾協会の会議室で練習が始まり、現在は飯田橋のT小学校の会議室をお借りしている。

活動の始まりは先輩格の「アンサンブル・シビル」にならって、土木学会全国大会で演奏することを考え、平成20(2008)年9月に東北大学で行われた全国大会で「^{さいたらぶし}斎太郎節」^しを歌った。

翌平成21(2009)年には福岡市での全国大会で「柳河」などを披露した。しかし全国各地で開催される全国大会に継続して参加するのは困難で、平成25(2013)年に日大船橋キャンパスで行われた全国大会に復帰した以降は、全国大会での演奏活動はなく、今日では東京で開催される土木学会総会後の懇親会での演奏に限られてしまっている。

このほかの定期的な活動としては、土木学会の所在地が東京都新宿区であることから新

宿区合唱連盟に加盟し、毎年夏に行われる「新宿合唱祭—初夏にうたおう—」と秋に行われる「音楽・コーラスのつどい」に出演している。出場団体には男声合唱団が少ないため、人気もある。さらに、土木関係の各団体の交流会、練習場を貸していただいている飯田橋のT小学校の合唱行事等でも演奏活動をしている。これまでの演奏活動と演奏した曲の記録は、シヴィル・クワイアのホームページ(<https://civil-choir/com>)に記録されている。

団員は土木学会の会員、会員となっている企業の職員その他で、土木の合唱団らしく、鉄道、川、道、港に関連した歌やハーモニーの美しい日本の合唱曲、ロシア民謡に挑戦している。

平成26(2014)年11月には「土木学会 創設100周年記念祝賀会」で、先輩の「アンサンブル・シビル」等と「大地讃頌」を演奏した(写真-1)。平成29(2017)年1月には「シヴィル・クワイア」初の自前の演奏会に挑戦した。団員や団員の奥様が参加している混声合唱団「アールコール・アンリミテッド」と、女声合唱団「ピアチューヴォレ」の応援出演をいただいて、目白にある草苑保育専門学校の講堂を会場に持つことができた。



写真-1 シヴィル・クワイアの演奏風景：100周年のステージ写真

3. 「シヴィル・クワイア」の現在

初めての自前の演奏会は、応援してくださった二つの合唱グループの実力にも支えられて成功裏に終わった。特に最後の合同ステージで指揮者の谷本喜基さんの指導のもとで歌った「川の流れるように」「『水のいのち』より雨」そしてアンコール曲の「アヴェ・ヴェルム・コルプス」はそのひとつひとつが美しく、会場には涙をそっと拭いている聴衆もいたほどである。

ここまでを、「シヴィル・クワイア」の第1期と呼ぶことができる。初めての自前の演奏会に心血を注いだ指揮者の宮地明彦さんがその後に体調を崩し、しばらくあとに現在の指揮者井上雄城さんに交代したからである。指揮者が代われば選曲も変わる。現在はテンポの早いイタリア民謡、我が国ではあまり歌われない北欧の歌等にも挑戦している。なお、初期はピアノもなく、「シヴィル・クワイア」で初めて合唱を経験する人も多い中で「音取り」に苦労していたのだが、現在は「アールコール・アンリミテッド」の田淵美也子さんが加わって下さり練習が楽になった。それだけでなく、ピアノ伴奏付き曲もレパートリーに加わっていった。

4. 「シヴィル・クワイア」のこれから

ところで、「シヴィル・クワイア」のきっかけともなった、お隣韓国のKSCE男声合唱団「Civil Harmony」(写真-2)だが、今回の執筆を機会にKSCEの会員である安熙道氏に情報を送っていただいて、その様子を知って驚いた。演奏中の写真から推定して団員数は優に30名は超えているだろう。かつては毎年定期演奏会を持っていたほどの本格的な合唱団である。定期演奏会は事情があってしばらく休んでいたらしいが、2019年9月には再開している。

2011年太白全国合唱コンテスト

で奨励賞授賞、2014年KBSテレビ局が主催したハーモニー合唱大会では予選4位で本選の舞台に立ち、全国的に知名度が上がったなど、赫々たる実績を誇っている。



写真-2 KSCE「Civil Harmony」の演奏風景
(2019年演奏会パンフレットから)

様子が分からないままに「シヴィル・クワイア」のスタートの頃は、「いつかはジョイントコンサートをしたいね」などと気楽に話していたのだが、これでは相当努力をしないとその夢は実現しない状況である(写真-3)。



写真-3 練習風景

ただ、再開コンサートのチラシの文章を読んで、気持ちは一緒であり、いつかジョイントコンサートができるものと確信した。以下にその一部を紹介する。

・再開コンサートのチラシより抜粋

「一般の方々には、土木工学、土木技術者に対してなんとなく強情なイメージをお持ちの方も多いのですが、私たち土木人は、自然

を美しく、そして暮らしやすくするため、手を入れて整える地球の彫刻家です。このような土木に携わる人の本当のイメージを広く知らせることに、当合唱団が少しでも役立っているということを誇りに思って活動しております。」
(安熙道氏訳)

おわりに

わが国でも平成25(2013)年の全国大会の折、千葉県森田健作知事が交流会に出席されて「土木学会に合唱団があると知って驚いた。さらにその美しいハーモニーに感心した。私の土木に対するイメージが変わった」とあいさつされたことを思い出す。様々なパートが、お互いの音を聞きながら自分の音を出し、その結果美しいハーモニーが生まれる。このこと自体が、我々が携わっている土木の仕事のポイントを示しているように思う。

練習は原則として月2回行っている(写真-4)。団員は「シヴィル・クワイア」のホームページ(前掲)で常時募集しており、土木技術者のみならず、土木系の企業に勤務している方で我と思わん人は、是非とも「シヴィル・クワイア」に加わり、力を貸して欲しい。



写真-4 練習は月2回、団員は常時募集中

取材を終えて

猛暑真ただ中の昨年8月末、練習風景を取材させていただきました。栢原さんが現在学校長を務められる草苑保育専門学校での合同合唱会(12月)に向け、道と港をテーマにした曲を練習していらっしゃいました。練習の合間に、シヴィル・クワイアの十八番をぜひ聴かせて欲しいとリクエストしたところメンバーの一人が歌詞を土木バージョンに作詞した、アメリカ民謡で、日本の童謡にもなっている「線路の仕事」を歌っていただきました。

線路を 作るは 俺たちだ
線路の 仕事に 誇り持て
汽笛の響きが 鳴り渡れば
希望乗せて走る どこまでも

力強さと何とも言えない温かさを感じるハーモニーに胸が熱くなりました。

編集委員：安楽岡摩利

追文：本文で紹介させていただいた岡田宏様が昨年11月29日に逝去されました。享年89歳。シヴィル・クワイアがスタートした頃、練習でそしてステージでともに歌ってくださり、我々を勇気づけてくださった岡田様に心からの感謝を申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。